

第10回 IWA-ASPIRE 会議・展示会 (ニュージーランド クライストチャーチ) 報告

日本水道協会研修国際部国際課

第10回 IWA (国際水協会) -ASPIRE (アジア太平洋地域) 会議・展示会が、令和7年9月29日 (月) から10月3日 (金) までの5日間、ニュージーランドのクライストチャーチにて開催された。

当該会議・展示会には約50か国から2,235名が参加し、論文発表 (口頭発表) とポスター発表を合わせて300編の発表が行われたほか、展示会には150団体以上の出展があった。

当該会議・展示会には IWA 日本国内委員会の事務局である日本水道協会も参加したことから、開催内容について報告する。



クライストチャーチの地図

ニュージーランド クライストチャーチ

ニュージーランドは太平洋の南西、オーストラリアの南東に位置する南半球の島国。

首都はウェリントンで、人口は約530万人 (外務省ホームページ：2024年ニュージーランド統計局)。

当該会議の開催地となったクライストチャーチは、ニュージーランド南島中部に位置するカンタベリー平野の東海岸に位置し、南島では最大の人口を有する都市で、人口は約41万人 (Data Commons より)。

クライストチャーチの水源は地下水であり、水道水は飲料水として利用可能。

また、クライストチャーチは水道料金が税金に含まれているため、原則として月々の水道料金の支払いはないのが特徴の一つ。

1. はじめに

(1) IWA について

水の効率的な管理と水処理技術の向上を通して、世界における安定的かつ安全な水の供給及び公衆衛生に寄与すること等を目的として設立された非営利機関であり、平成11 (1999) 年9月に、水道事業体を中心とした IWSA (国際水道協会) と、学界を中心とした IAWQ (国際水環境協会) が合併し、IWA が設立された。法的には、イギリスの慈善団体として登録されている有限責任会社であり、本部はイギリスのロンドンにある。現在、140か国以上に、約10,000名の個人会員と約450の団体会員 (水関連企業、研究機関) を有する。

(2) 第10回 IWA-ASPIRE 会議・展示会について

アジア太平洋地域の水問題及びその解決策について議論を深めることを目的として、アジア太平洋地域の IWA 理事会員が IWA-ASPIRE 評議会を設立して開催する会議。

IWA 世界会議・展示会と交互に隔年で開催されており、IWA の主要な会議の一つとして位置づけられている。

今回が10回目の開催となり、その概要は以下のとおり。

期 間	令和7（2025）年9月29日（月）～ 10月3日（金）
開催地	ニュージーランド クライストチャーチ
会 場	① Te Pae Convention Centre（コンベンションセンター） ② Christchurch Town Hall（タウンホール）
テーマ	Empowering Tomorrow - Smart water solution for resilient communities
参加者数	約50か国 2,235名（会議参加者と展示会参加者の総数）
展示団体数	約150団体
発表数	口頭発表 : 155編（うち日本より26編） ポスター発表 : 145編（うち日本より17編）
主要日程	表-1のとおり
備 考	当該会議は、ウォーターニュージーランド（Water New Zealand, the New Zealand Water & Wastes Association）による水会議・展示会と同時開催

表-1 主要日程

イベント名	9月29日（月）	9月30日（火）	10月1日（水）	10月2日（木）	10月3日（金）
ウェルカム ファンクション（歓迎会）	16:00-18:00				
開会式		8:30-8:45			
基調講演		8:45-10:40	8:45-10:30	8:45-10:30/ 15:30-16:45	
口頭発表 ワークショップ		11:00-12:30/14:00-15:30/ 16:00-17:30		11:00-12:30/ 13:30-15:00	
フォーラム		13:00-14:00			
ポスター展示 展示会		9:00-17:30（10月2日のみ9:00-15:00）			
カルチュラル ガラディナー			19:00-23:00		
閉会式				16:45-17:10	
サイト・ビジット （技術視察）					6コース毎

参考 これまでの IWA-ASPIRE 会議・展示会開催一覧

回	開催年	開催国	開催地	参加者数
第1回	平成17（2005）年	シンガポール	ー	約700名
第2回	平成19（2007）年	オーストラリア	パース	約540名
第3回	平成21（2009）年	台湾	台北	約830名
第4回	平成23（2011）年	日本	東京	約1,400名
第5回	平成25（2013）年	韓国	大田	約800名
第6回	平成27（2015）年	中国	北京	約1,000名
第7回	平成29（2017）年	マレーシア	クアラルンプール	約650名
第8回	令和元（2019）年	中国	香港	約700名
第9回	令和5（2023）年	台湾	高雄	約1,360名
第10回	令和7（2025）年	ニュージーランド	クライストチャーチ	約2,240名

※参加者数は主催者発表による。

2. 会議

(1) 開会式

開会式は、9月30日（火）の8時30分から行われ、IWA ニュージーランド会長の Marion Savill 氏らによる挨拶が行われた。



開会式の様子



IWA ニュージーランド会長の Marion 氏による挨拶



会議会場 -1
(Te Pae コンベンションセンター)



会議会場 -2
(Christchurch タウンホール)

(2) プレナリーセッション（全体会議）

テーマに沿って、その分野の専門家等において基調講演やパネルディスカッションを行うプレナリーセッションが、タウンホール及びコンベンションセンターの講堂にて実施され、最新の研究から得られた知見等が共有された。全体会議の概要は表-2のとおり。

表-2 基調講演一覧

開催日時	テーマ	講演者
9月30日（火） 8:45-10:40	先住民族コミュニティとWASH（Water, Sanitation and Hygiene、水と衛生と衛生習慣）ガバナンスモデル ／Indigenous Communities and WASH Governance Models	【議長】 Soltice Morrison （ウォーターニューージーランド） 【基調講演者】 ① Te Maire Tau ② Susheel Arora ③ Nina Braid ④ Susan Chiblow 他
10月1日（水） 8:45-10:30	プラネタリーヘルス（地球環境と人間の健康の関係性を探求し、行動を促進する概念） ／Planetary Health	【議長】 Annalisa Contos （アトムコンサルティング） 【基調講演者】 ① Katherine Richardson ② Alison Collins 【パネラー】 ① Datuk Ir. Abdul Kadir Mohid Din ② Liz Root 他
10月2日（木） 8:45-10:30	規制枠組みの強化：持続可能な衛生サービス規制の重点化 ／Strengthening Regulatory Frameworks: a Focus on Regulating Sustainable Sanitation Services.	【議長】 Robert Bos (IRC 国際水・衛生センター) 【基調講演者】 ① Raveen Jaduram ② Patrick Lester N. Ty 他 【パネラー】 ① Hayati Yarkadas ② 佐野大輔 東北大学教授 他
10月2日（木） 15:30-16:45	飲料水と衛生サービス：自然災害後のレジリエンスの構築 ／Drinking Water and Sanitation Services: Building in Resilience in the Wake of Natural Disasters	【議長】 Darryl Day （ピーター・カレン環境・水トラスト） 【基調講演者】 ① Nerina Di Lorenzo ② Craig Thew 他 【パネラー】 ① Meike van Ginneken ② Corinne Cheeseman 他



基調講演の様子-1



基調講演の様子-2

(3) 口頭発表

口頭発表は9月30日（火）から10月2日（木）の3日間で行われた。

各発表は以下の7つのテーマに割り当てられ、2会場の会議室にて発表が行われた。

口頭発表は質疑応答を含め発表者から各20分間で行われたほか、各セッションの後半では、選ばれたポスター発表者による発表も行われた。

口頭発表総数は155編であり、日本からの発表数は26編だった。

各会場には多くの聴講者が足を運び、活発な議論が展開されていた。

- テーマ1 明日を豊かにする (Empowering Tomorrow)
- テーマ2 ガバナンス、公益事業管理、支援環境
(Governance, Utility Management and The Enabling Environment)
- テーマ3 スマートソリューション (Smart Solutions)
- テーマ4 リスクとレジリエンス (Risk & Resilience)
- テーマ5 地域コミュニティ (Communities)
- テーマ6 レジリエンス、ガバナンス、イノベーション
(Resilience, Governance, and Innovation)
- テーマ7 ガバナンス、政策、制度 (Governance, Policies and Institutions)



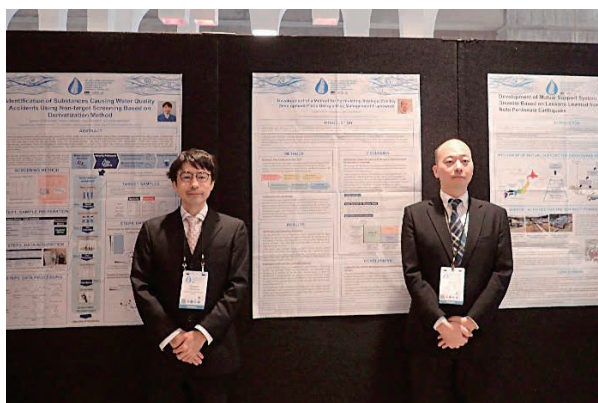
口頭発表の様子-1
(仙台市水道局 橋谷田氏)



口頭発表の様子-2
(名古屋市上下水道局 西氏)

(4) ポスター発表

ポスター展示会場はタウンホールに設置され、9月30日（火）、及び10月1日（水）のモーニングティーの時間帯に、ポスターセッションを行う時間が用意された。



ポスター展示会場の様子-1



ポスター展示会場の様子-2

(5) フォーラム

特定のテーマや目的に沿って参加者が意見交換及び情報交換を行うフォーラムが以下のとおり開催された。

表-3 フォーラム一覧

日時	フォーラム名	概要
9月30日(火) 13:00-14:00	イノベーションフォーラム /Innovation Forum	「自然由来のモバイル型水処理技術」や「リアルタイムで水使用量を監視・予測・最適化するAIプラットフォーム」などの革新的(Innovation)技術に関するフォーラム
10月1日(水) 13:00-14:00	水と生態学のフォーラム /Water & Ecology Forum	「One Water, One Health」をテーマとした、持続可能な水管理と生態系の保護に関するフォーラム



フォーラムの様子-1



フォーラムの様子-2

(6) 閉会式

10月2日(木)の16時45分より行われた閉会式では、議長を務めたウォーターニュージーランド CEOの Gillian Blythe 氏、IWA ニュージーランド会長の Marion Savill 氏、IWA 副会長の Mohmad Asari Bin Daud 氏(マレーシア水道協会前会長)らから挨拶が行われた。

また、次回2027年の IWA-ASPIRE 会議・展示会の開催国であるフィリピンによるビデオメッセージが上映されたほか、開催地の証であるプレートが引き継がれた。

なお、次回の第11回会議は2027年10月25日から29日の日程により、フィリピンのマニラにて IWA とフィリピン水道協会(PWWA)の共同で開催される予定。



閉会式の様子-1



閉会式の様子-2

3. 展示会

展示会は、コンベンションセンターの展示エリアにて開催され、150団体以上の出展があった。

また、展示エリアは各団体による出展のほか、9月30日（火）に行われた合同ウェルカムファンクション会場や、モーニングティー及びランチ会場としても利用されていた。

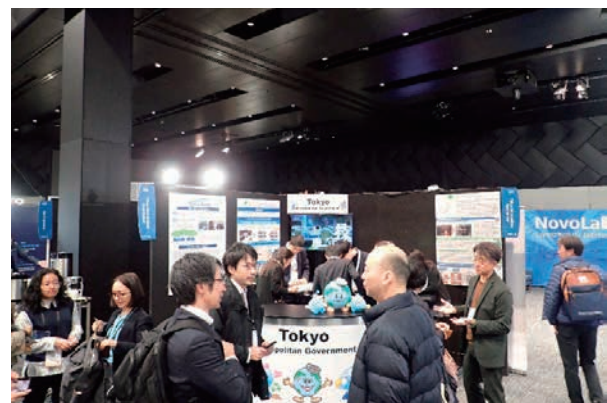
日本からは、東京都水道局・東京都下水道局・東京水道株式会社が共同で出展し、東京都の取り組みを紹介していたほか、株式会社栗本鐵工所、コスモ工機株式会社、横河電機株式会社が出展した。



展示会場レイアウト



展示会場の様子



東京パビリオン

4. ソーシャル・プログラム

(1) ウェルカムファンクション（歓迎会）

9月30日（火）の開会式の前日となる9月29日（月）の16時から、タウンホールの講堂にてウェルカムファンクション（歓迎会）が開催された。

(2) 合同ウェルカムファンクション

9月30日（火）の17時30分より、コンベンションセンターの展示エリアにて、ウォーターニュージールランド会議との合同によるウェルカムファンクションが開催された。

(3) カルチュラル・ガラディナー

10月1日（水）の19時より、コンベンションセンターの RAKAIA ルームにて、カルチュラル・ガラディナーが開催された。

ニュージーランドの先住民であるマオリ族の伝統的な調理方法によるハンギ料理を含むディナーが提供されたほか、同じくマオリ族の伝統的な舞踊であるハカを始めとするパフォーマンスが披露された。



ガラディナーの様子 -1



ガラディナーの様子 -2

5. サイト・ビジット（技術視察）

技術視察は、表-4のとおり6つのコースが設けられ、10月3日（金）に開催された。

表-4 技術視察コース一覧

No	コース名	時間	概要
1	ブルー・グリーン・インフラの進化 The Evolution of Christchurch's Blue-Green Infrastructure	9:00-13:00	クライストチャーチ市の建設・開発における水路整備や水質改善等の歴史的プロジェクトを学ぶ
2	バンクス半島：廃水、湖、港 Banks Peninsula: Wastewater, Lakes, and Harbour	8:30-18:30	バンクス半島地域における廃水処理、淡水質の歴史と水質問題等を学ぶ
3	網状河川の灌漑と環境管理 Braided River Irrigation and Environmental Stewardship	9:00-15:00	カンタベリー平原で持続可能な農業を可能にした、生態学的重要性を意識した灌漑計画を学ぶ
4	オタカロ・エイヴォン川散策 Ōtakaro Avon River Walk	9:00-12:00	オタカロ・エイヴォン川沿いの水路を散策し、水路や湿地の重要性を学ぶ
5	オタカロ・エイヴォン川回廊 OARC - Ōtakaro Avon River Corridor	9:00-12:00	オタカロ・エイヴォン川の主要地点を巡るウォーキングツアー、歴史的背景や環境問題等を学ぶ
6	飲料水 Drinking Water	8:30-12:30	クライストチャーチ市内の3つの浄水場と給水ステーションを訪問し、同市の給水の仕組みを学ぶ

6. その他の会議

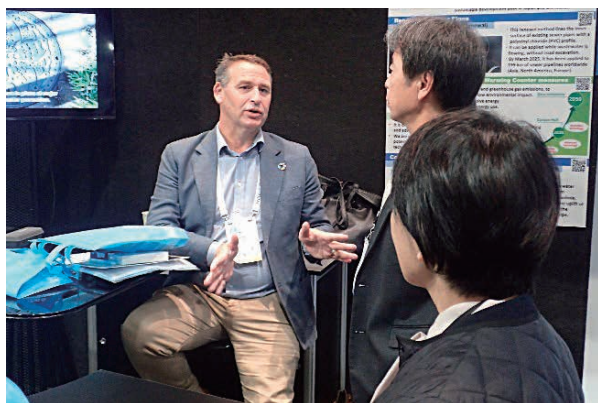
(1) IWA-ASPIRE 評議会

9月30日（火）の17時45分からIWA-ASPIRE評議会が開催され、2027年に開催される次回のIWA-ASPIRE会議・展示会（フィリピン マニラ）に係る最新情報の発表や署名式などが行われた。

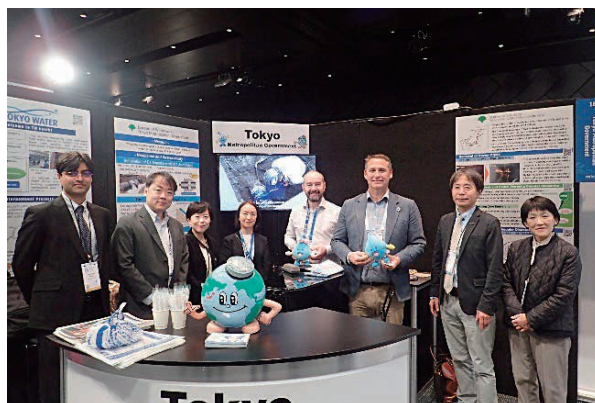
(2) オーストラリア水サービス協会との会合

10月2日（木）の午前中に、東京都の合同展示ブースにて、MOU締結国の1団体であるオーストラリア水サービス協会（WSAA）との会合を行った。

先方からは専務取締役のAdam Lovell氏とマネージャーのJames Goode氏が参加し、人材確保や施設の更新、気候変動による水資源への影響、運営体制など両国の水道事業の抱える課題について意見交換を行った。



WSAA との会合の様子



WSAA との記念撮影

(3) IWA 会議・展示会参加研修

当該会議・展示会に合わせて、本協会の国際研修「令和7年度IWA会議・展示会参加研修」を実施した。

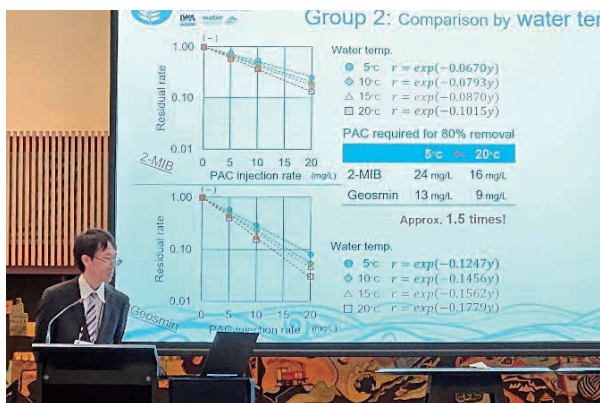
この研修は、当該会議での口頭による論文発表に採用されたことを条件として、7地方支部からの推薦により研修生を決定しており、本年度は北海道地方支部、東北地方支部、関東地方支部、中部地方支部より4名の研修生が参加した。

研修生とその発表論文タイトルは、表-5のとおり。

なお、研修生による合同報告書（資料）を次月以降の水道協会雑誌に掲載する予定。

表-5 令和7年度IWA会議・展示会研修 研修生及び発表論文

研修生氏名	研修生所属・役職	発表論文タイトル
長谷川 健太	札幌市水道局 給水部施設管理課	粉末活性炭によるカビ臭物質の除去性能調査 A Study of Musty -Odor Substance Removal Performance of Powdered Activated Carbon
橋谷田 和正	仙台市水道局 給水部計画課	安定給水に向けた水系二系統化の取組 Efforts Toward a Dual Water Supply System for Stable Water Distribution
岡田 浩昭	横浜市水道局 給水サービス部三ツ境水道事務所	排水式漏水補修材の開発 Development of "Self -draining Water Leak Repair Device"
西 響太	名古屋市上下水道局 計画部水道計画課	木曾三川における流況シミュレーションのモデル化及び評価 Modeling and Evaluation of Flow Simulation in the Kiso River System



研修生による論文発表の様子-1
(札幌市水道局 長谷川氏)



研修生による論文発表の様子-2
(横浜市水道局 岡田氏)

7. 会議総括

今回の会議では、会議参加者及び展示会参加者延べ2,200名以上が一堂に会し、会場は盛り上がりを見せていた。

なお、本協会が後援している日本からの会議参加ツアーには36名の申し込みがあり、日本人参加者が一体となり会議に臨むことができた。

併せて、IWA 会議・展示会参加研修を行うことができ、水道事業体研修生を始めとする日本からの論文発表に際し、各国の聴講者から多くの質疑が行われたほか、発表終了後も引き続きロビー等で質疑が行われている様子も伺えた。

日本は水道分野において高い技術力を有しており、これを世界に発信し国際的な信頼関係を築くには、グローバルな視点を持つ人材が不可欠である。国際分野で活躍する人材の育成のためにも、そして日本のプレゼンスを向上させるためにも、国際会議に参加する意義は大きい。

今回の開催にあたっては、予定していた会議会場の竣工が遅れたことにより、当初の開催日程及び開催都市（10月20日～24日、オークランド）が急きょ変更となった。そのような状況下においても、当該会議・展示会を円滑に運営されたウォータージェーランドに敬意を表したい。

最後に、「Water action – the path to resilience and prosperity」を会議テーマとして、2026年10月4日（日）から10月8日（木）の期間で IWA 世界会議・展示会が英国のグラスゴーで開催される。本協会は、引き続き、本協会正会員である水道事業体を対象とした IWA 会議・展示会参加研修及び本協会が後援する日本からの会議参加ツアーの開催を予定している。日本からの情報発信や海外水道情報の収集の貴重な機会として、積極的に活用いただきたい。